

The Akita University Post

TAKE FREE

発行 AUP秋田大学報道局

Tuesday, February 5, 2013 No.19

印刷 有限会社三浦印刷

 aup@live.jp

新年ロック始め。

4大学スウィンドルに集う

秋田市大町のライブハウス、「秋田クラブスウィンドル」で年明け4日、「大学生サークル新年会合同フリーライブ2」が開かれた。ライブには秋田市内から秋田大学を含む3大学と、岩手県から岩手大学の軽音楽サークルが参加し、14組の若きバンドが出演して熱い演奏で盛り上がった。

かねてより、同ライブハウスと交流のあった大学の軽音楽サークルが一堂に集う音楽イベント。昨年、9月末に第1回が開かれ成功を納めた。今回で2回目を迎える。午後からスタートしたライブは6時間に渡った。1組25分の持ち時間。

禁止している学校もあるという。石岡さんは、音楽を楽しむために人が気軽に参加できるように、サポートをする健全なライブハウスでありたいとアピールした。

秋田大学軽音楽研究会の鈴木琢磨部長（工学資源学部材料工学科3年）は「ライブでは主にコピー曲を演奏するが、演奏にかける気持ちはプロにも劣らないと思う。自分達にしか出さずこのできないものをライブで発揮していきたい」と語る。鈴木さんは様々な考えに触れて時にはぶつかり合うことで、音楽に対する考え方を考える良い刺激をもたらしたという。出演したその



▲曲調に合わせてライトアップされたステージ上で、熱気溢れる演奏をするバンド。出演者の中にはライブのために、作曲した曲を演奏するバンドも出演しており、会場を賑わせた。＝秋田クラブスウィンドル

他のバンドにもインタビュアーを敢行したが、皆それぞれに音楽にかける熱い思いを語ってくれた。

開催を予定している。次回は大学だけでなく、短大や高校のバンドにも出演の幅を広げていくとのこと。若い力による文化交流が県境をも越え広がっていく。今後も彼らの熱意に期待したい。（嶋崎雄基）

学長に聞いてみた 百周年記念館 ってこんなところ



昨年11月8日、手形キャンパス南側のベンチャーインキュベーションセンター隣に、「百周年記念館」（写真）が竣工した。その建設の目的、経緯を吉村昇学長に伺った。

工学資源学部の前身、秋田鉱山専門学校が開校してから100周年を迎えたのは2010年。その記念として百周年記念館が今年度建設された。百周年記念館は産学連携の研究施設であるベンチャーインキュベーションセンターの3期工事として建設され、センターの既成部分とは廊下で繋がっている。建設費用の3分の1は工学資源学部同窓会（北光会）・教職員等を中心とした百周年記念会から寄付された。

百周年記念館の特徴的な外観は、秋田鉱山専門学校の本館をモデルにしている。この建物は、秋田大学となった後も1965年まで本部として使用された。学長も学生時代の最初の2年間、モデルとなった建物に入ることがあった。

「持っているものはハイテクなのに、ずいぶん原始的だね」思いがけないことを指摘されたので、私は苦笑してしまった。ある方にタブレット端末で我々の学生新聞を見せた後、紙のメモ帳を取り出したためであろう▼昨今の急速な電子化には驚きを隠せない。最近では、インターネット上で各党首による政治討論会が行われ、老舗のニュース雑誌は電子書籍のみの提供へ切り替えた。かつて、政治討論会なら新聞社などの記者クラブが主催しており、雑誌は紙媒体であって書店に並べられるのが普通だった▼私の周りにもインターネット上から情報を仕入れるという者が多くいる。いつでも素早く情報を伝えることができる新しいメディアは、新聞社やテレビ局もニュース発信や番組解説に積極的に活用しているとも聞く。果たして情報発信の主役は移ってしまったのだろうか▼しかしながら、先ごろ発表された「メディアに関する世論調査」では、「新聞は様々な情報を提供する」「新聞は責任感が強い」と、新聞に対しての評価が高いという結果が出た。また震災でテレビやラジオが無く、インターネットもパンクしていたときに、新聞が情報を確保するための緊急物資になったというエピソードもあった▼前述の調査ではこのような結果も出た。それは「新聞は社会を導いていく力がある」と答えた人が5割強もいたことだ。情報に氾濫する現在でも、新聞の報道が世間に影響を与えることを痛感させられる。だからこそ、情報を伝える際は細心の注意を払わなければならない。すなわちこれは、創刊5周年を迎える我々にとっても永遠の課題といえよう。

（村田悠輔）

（畠山昂大）

OBは
かく語りき

百周年 記念館

に懐かしむ

▼ 岩瀬さんの講演に熱心に耳を傾ける参加者たち



チャンス をつかむ シンポジウム 開催

NPO法人「switch on」が昨年11月24日、秋田ビューホテルで秋田の若者に向けて「チャンスのつかみ方を考える」シンポジウムを開催した。

同法人は、秋田県の未来を担う若手企業経営者、起業志望の若者を対象に、「開業の若者の創造」と「起業支援」「販路・企業家ネット

トワークの拡大」に資する事業を行い、秋田県経済の活性化に寄与することを目的としている。そこでライフネット生命株式会社副社長の岩瀬大輔さんを招き、自身の生い立ちから起業夢について語って頂いたという。

岩瀬さんの起業のきっかけは、ハーバード経営大学院留学中のブログ「ハーバード留学記」である。アメリカから見た日本や留学中の感動を記し、その人気は本となるほど。それを讀んだ日本のある企業家から起業を勧められた。「人生は一回きりしかない。自分の個性を生かしエッジのきいた生き方をすべきだ」

（久米真梨子）

秋田大学3年生の学生は「就職活動をしていく上で企業に就職することが全てだと思っていたが、例えば起業すると言う選択もあるのだと考えさせられた」と話していた。卒業後の身の振り方を決めるにあたって、悔いのないような選択をしたいものだ。

（久米真梨子）

「放射線」を今、考える。



▲ 後藤先生とRIセンター
後藤先生は同センターの運用において、国が定めた放射線取扱主任者を務めている。

今までは一般には遠い存在であり、また防犯上の観点からも情報公開を控えていた同センターだが、最近の社会情勢を鑑みてホームページでの情報公開に踏み切った。震災直後は県などに放射線の検出器を積極的に貸し出したという。また県には大学内にある放射性物質測定器も使用を許可した。ただしこれは特例であり、同センターはあくまでも研究利用のための施設である。

後藤先生は「RIセンターのもつ放射性物質は極めて低レベルなものがほとんどであり、自発反応を起こすこともない、安定的な放射性同位元素のみを扱っている」と安全性を訴える。理工系の学部を持つほとんどの大学には同様の施設があり、廃液処理などにも国の厳しい基準を満たさなければならぬ。加えて福島第一原発事故以降、放射性物質には過剰に反応する傾向にあるが、正しい知識を持つて、正しく恐れたい」と後藤先生は理解を呼びかけた。

（畠山昂大）



百周年記念館の北光会事務局にて、学生時代の思い出を語るOBの小松さん

秋田大学では2014年に国際資源学部の新設を検討している。現在の工学資源学部の資源学系分野と、教育文化学部の国際系分野を合わせた文理融合型である。この学部は、国内外に渡り活躍できる人材育成を目的としている。このように新たな時代を見据えていく秋田大学。それでは、工学資源学部の元となった鉱山学部があった時代はどのようなものであったのだろうか。百周年記念館内に置かれている北光会事務局を通じて、秋田大学鉱山学部1954年卒の小松文雄さん（81）に当時のお話を伺うことができた。

小松さんが大学生の頃は終戦直後。世間もどこか開放的で、学生たちも生き生きしていたそうだ。戦後、柔剣道は禁止されたために部活動の数が増え、小松さんは学生時代

をテニス部で過ごす。「秋田中学では、ラケットやボールはあるがコートはなかった。それだから空き地の砂利を拾って石灰で線を引いて練習しなくてはならない。ボールが毎回あさつての方向に飛んでいって大変だった」その後入学した秋田大学にはコートがあり、雑草が生えていたが嬉しく感じたという。昨年に81歳を迎えた小松さんだが、早朝テニスサークルを結成し、秋大コートで地域活動の指導者としてテニスを続けている。

百周年記念館について尋ねると、「当時の面影をうまく表していると思う。とくにバルコニーは昔のままだ」と懐かしんでいる様子だった。小松さんが通っていた頃、すでに建物はかなり老朽化していた。窓の開閉ができなかったり、床などに穴が空いていたりしたそうだ。

学部の名称が変わっても、学生たちの有り余る活力は変わらないのではないかと。我々も何十年後に振り返って、後世に伝え残せるような学生生活を過ごしていきたいものだ。

（齋長次）

秋田大学放射性同位元素センター

東日本大震災での原発事故で秋田大学の研究施設が活躍したのをご存知だろうか。秋田大学放射性同位元素センター（RIセンター）である。管理している秋田大学大学院工学資源学研究所の後藤猛教授（生物化学工学）にお話を伺った。

同センターは、放射性同位元素を使用した教育や研究活動の支援を目的として、1961年に秋田大学に設置された。ここでは施設内に保管されているトリウムなどの放射

性同位体を用いて、化学反応の解析や物質移動の追跡を行っている。放射性同位元素は物質中においても強力な反応を示すので、化学反応が起きたかどうか、物質がどこへ吸着したかをたどる弱くても調べることもできるという。卒業論文や修士論文の実験

施設として使用されているほか、被ばくの検査、放射線教育の場としても大いに活用されている同センター。ここで教育訓練を受けた者には登録従事者として大学が証明書を発行、秋田大学以外の研究機関でも研究ができるようになる。「医学研究で放射線を利用することが多いため、医学部のある本道キャンパスにも、バイオサイエンス教育研究センター放射線部門という施設がある」と後藤先生は言う。

大型高気圧酸素BOX 導入！

美容・疲労回復・ダイエットに 6名様まで同時利用可能
40分コース1名様利用 2000円 2名様利用で1人1600円

人工炭酸泉浴完備！

大浴場のほかに貸切風呂もあります。

料金が入浴コース 600円

ゆったりコース 1300円（タオルセット・館内着付き）

年末年始休まず 24時間営業 レストランは深夜2時まで営業

ユーランドホテル八橋

TEL018-863-7811

FAX018-863-7210

〒010-0961 秋田市八橋イサノ2-16-29

アルバイトをしませんか。18時～26時の間で5～6時間程度（休憩あり）時給700～825円

充実した設備で「親切・丁寧」



アキジ 検索



ライフスタイルにあったプランを提供します。

秋田自動車学校

秋田市八橋新沼町9番49号 TEL 862-3529

GULF

hair art works

Cut	¥4,515～
Color&Cut	¥8,505～
Perm&Cut	¥8,925～

〒010-0904
秋田市保戸野原の町8-31（秋大附中となり）
受付時間：【平日】10:00am～19:00pm
【日・祝日】10:00am～17:00pm
定休日：月曜日 ※時間外予約可

電話：018-893-3322

新規の方で新聞を見た方、すべてのメニューを10%OFFにさせていただきます。

秋田・つながり・未来・うきうき！ 学生団体 ATMU!

人口減少と高齢化の著しい秋田県。地域活性化に取り組んでいる県内の大学生をご存知だろうか。

学生団体ATMUは、一昨年の4月、国際教養大学の学生が中心となって発足した。現在は秋田大学・ノースアジア大学・秋田県立大学・秋田公立美術工芸短期大学も含む県内5大学の学生18名で活動している。副代表で広報担当の金雄大さん(ノースアジア大3年)にお話を伺った。

ATMUの活動の幅は広い。主催イベントの「あきた学生ていーたいむ」は、学生同士がカフェのように和やかな雰囲気の中で様々なテーマについて話し合うもの。金さんは「何か答えを出すことよりも、ていーたいむを通じて人のつながりが増えていくことが目的」という。また、秋田の祭りや農業体験などのイベントにも積極的に参加している。さらに昨年9月には、学生自線の商

店街マップ「あきたまちぐるぐと」を製作。商工会議所の支援も受け、無料で配布している。異なる大学の学生が所属しているため、メンバーが顔を合わせるの

月に1度ほどしかないという。メールやスカイプを使った会議、班ごとに分かれての活動など工夫をしている。異なる環境にいる学生が集まること

が、豊かなアイデアや幅の広い活動を可能にしているのではないだろうか。「発足から約1年を経



て、ようやく団体として形になってきた」と金さん。今では企業からの問い合わせなど、外から声がかかることも多い。しかし、それだけではなく内側からの変化にも手応えがあるという。「メンバー自身が街に興味を持ちはじめたことが嬉しい。入った当初はどりあえず何かしたいという想いだったのが、一人一人が街の『面白いこと』を見つけ、これからやりたいことが具体的にになってきているのを感じる」

若者の視線を生かし、身近なところから少しずつ活動の輪や人の輪を広げていく。そんなATMUの活躍にこれからの期待したい。(和田陽佳)

がんつてしんどい？ 間寛平さん講演

昨年12月21日、「県民の健康を守る」秋田大学医療フォーラムが開催された。がん予防に関するパネルの展示もされ、多くの市民が参加した。2009年のデータによると、生涯でがん罹患する確率は、国民の2人に1人だ。会場には、多くの方が来場したほか、実際にがんに罹患されている方も講演に耳を傾け、がんと向き合う姿勢を学んだ。

前半は秋田大学医学部の先生方による「がんとは何か?」「がんによる死亡率日本一のか?」の講義が行われた。その後、間寛平さんが登場。アースマラソンに関する軽妙なトークで会場を盛り上げ、アーメーマなどの一発ギャグも連発。常にお客さんを気にかけて、講演された。さらには、寛平さんが前立腺がんを患っていることもあり、自身の経験を伝えることで、がん治療

の周知にも励んでいた。最後に寛平さんは、「がんになって生活するのはしんどい。周りの人に『がんになつてしまつて。助けてええな』って感じて甘えればええな」と講演を締めくくった。会場に来ていた秋田大学教育文化学部の大学院生は、「私の祖父もがんで亡くなっており、自身の健康に関して興味があった。また、がんの罹患率があがっている。将来生徒に指導するうえで、今回の講演を参考にし、生活指導に役立てたい。さらに、死生観に関する教育も行いたい」と話していた。

不規則になりがちの学生生活ではあるが、自らの体のことをもつと知るべきであろう。平均寿命が伸びる中でがんのリスクも高まっているのだから。(関駿介)

卒業生に聞く

「かつての自分と同じようにけがで苦しむ人を助けたい」
そんな思いで働いている先輩がいる。「卒業生に聞く」最終回は、医学部保健学科の卒業生である長谷部巨さんにお話を伺った。

現在の職業を選ぶきっかけとなったのは、中学校の水泳部時代のけがだ。練習中に自由形競技のスタートで頭を水中に打ちつけてしまい、頸椎を骨折。一時は車いすでの生活となることを覚悟した。2カ月半に及んだ入院生活で懸命なリハビリをこなし、なんとか普通の生活に戻るこ



はせべ・わたる
秋田県立大館鳳鳴高等学校 卒業
医学部保健学科看護学専攻
在学中は水泳部に所属
2011年卒業
現在、秋田大学医学部附属病院に勤務

ができるようになった。病院職員のサポートが大きな支えになったという。

長谷部さんはそこでの経験により、医療に従事することを考え始める。「患者の自分にとって、看護師さんは一番身近な存在だった」そう思う

と共に、同じような怪我をしている人を救いたいと感じるようになる。

医学部は他学部比べ、就職しやすいと断った上で「なぜその職業に就きたいか考え、道を選んでほしい」と在学生にメッセージを寄せる。

長谷部さんは自らの経験を仕事に活かしたいと強く考えていたため、就職試験で整形外科での勤務を希望し、それを叶えた。就職活動を進める上で、自分の意思をはっきりと伝えることも重要なのではないか。

長谷部さんは「今でも、けがの痛みはある」と語る。しかし、そのことが自分も患者だったことを思い起こさせるのだから。不安をもつ患者さんと接する最初の窓口が看護師であるという自覚を強くする瞬間だ。「地元で勤務していることで、少しは恩返しできているかな」と長谷部

さん。現在、大学病院で懸命に業務に取り組んでいる。

卒業間もない新社会人のみなさんにお話を伺った「卒業生に聞く」は各学部、全3回のシリーズで掲載してきました。ご協力いただいたOB・OGのみなさんありがとうございました。(濱田俊太郎)

ブログ更新中

AKB48もポケモンも登場!

読売DoMo新聞

お申し込みはあなたの街のYCへ
読売センター秋田東部
TEL 018-833-6466 FAX 018-836-5974
E-mail aaaa7691@yomiuri-hanbai.com

ケーブルテレビで秋田の冬を、楽しく!便利に!快適に!過ごそう!

CATV IBC 岩手放送 (TBS 系列) が観られるのは秋田ケーブルテレビだけ! もちろん専門チャンネルも充実のラインナップ!

INET より手軽に、快適に。月額2,940円(税込)からのリーズナブルな安心インターネット。お得な【セット割】もご用意!

P-TEL 使い勝手は今までと同じ。さらに乗り換えも簡単♪ケーブルプラス電話間 24時間無料。

CNA CABLE NETWORKS AKITA TEL 0120-344-037
秋田ケーブルテレビ 営業時間 / 9:00 ~ 18:00 / 土日祝も営業中!
http://www.cna.ne.jp

WAGON R

ENE-CHARGE

豊秋田スズキ
TEL 018-823-4211

秋田営業所	TEL 018-823-4211	秋田市高橋町16-10
力一秋田	TEL 018-824-2110	秋田市市野原町58-58
富内営業所	TEL 0186-22-1935	秋田市富内町1-10
大館営業所	TEL 0186-43-1650	大館市山崎2丁目3-3
能代営業所	TEL 0185-52-6306	能代市学道町24-17
大曲営業所	TEL 0187-66-1421	大曲市高瀬上野字高瀬町3-1
横手営業所	TEL 0182-35-5880	横手市大字字高瀬町100
湯沢営業所	TEL 0183-78-2520	湯沢市大字字高瀬町112-4
本荘営業所	TEL 0184-28-1010	湯沢市大字字高瀬町108-1

(写真) 昨年10月に開催されたミスコンでグランプリをかざり、あいさつをする高橋さん



第5回ミスコン「秋田大美人」(企画運営・AUP)がランプリに選ばれた、教育文化学部人間環境課程4年生高橋さやかさんに話を聞いた。高橋さんはこれまで、イルミネーション点灯式の参加、雑誌の取材など大学のPRに尽力している。

ミス秋大 高橋さん にインタビュー



生まれも育ちも秋田県。今年で5回目となったミスコンだが、秋田県出身者がミスに選ばれたのは3年ぶりだ。バイト先でも色白で秋田美人です、ね、と言われることも多いという。

秋田大学の研修施設・乳頭ロッジを知っている学生は何人いるのだろうか。平成8年に大学職員の福利厚生や学生の課外活動のため、全国屈指の名湯である乳頭温泉郷にオープンした施設である。しかし近年は慢性的な赤字にあり、吉村昇学長もブログ等で積極的な利用を呼びかけている。「乳頭ロッジってどんなところだろうか?」学生支援課の窓口掲示でしか乳頭ロッジを知らなかった私、ハタケヤマは現地取材を敢行した。

昨年12月、秋田駅より電車を乗り継いで田沢湖駅へと向かった。田沢湖駅前のバス停から乳頭温泉行のバスへと乗りこむ。運賃は800円。バスに揺られること45分、「休暇村前」というバス停で下車する。17時であったが、冬の日暮れは早いため辺りは真っ暗。そして高地であるため針葉樹に雪がどっさり積もっていた。スマートフォンでのGPSを頼りに歩くこと10分、明かりが見えてきた。入り口の看板は雪に埋もれていたが、あの三角形の屋根は乳頭ロッジだ。



ロケハウス風の建物は近くで見ると大きい。風除室の戸を開けると、硫黄のにおいが漂う。「こんばんは」と奥へ呼びかけると、ロッジの管理人である真崎さんご夫妻が迎えに来てくれた。

真崎さんご夫妻は仙北市田沢湖神代の方で、昨年12月から管理人を務めている。お二人はこのロッジに暮らしながら、宿泊客や来館者を出迎えている。

学は学生にしっかり宣伝すればいいのに」と残念がっていた。長旅の疲れも癒え、さっぱりとした気持ちでいつの間にか眠りに落ちていた。

AUP presents
学生 × 名手 聞き書きの
作家・塩野米松と語る会
-文章で伝えるということ-
予約不要 参加費無料
2月15日(金)
17:00~19:00
秋田大学附属図書館 2階 研修室
塩野米松(しののよまつ)さん プロフィール
1947年 秋田県角館に生まれる。東京理科大学理学部卒業。芥川賞候補に4度参る。小説の他、職人の聞き書きを中心に執筆活動を行っており『木のいのちのちのころ』(新潮文庫)はベストセラー。近著に、日本人初の8千m級峰全14座登頂の登山家 竹内洋島氏の世界に迫った『初代竹内洋島に聞く』(アートオフィスプリズム)や前日本テレビ会長 氏家貴一郎氏の聞き書き『昭和という時代を生き延びて』(朝日書店)がある。
主催: AUP秋田大学後援会 お問い合わせ: aup@live.jp

デザイン文具・雑貨
アウフヘーベン
秋田市保戸野鉄砲町 9-58
電話 018-853-0533
営業時間 お昼の12時から夜8時まで
www.aufheben-store.com

aufheben
stationery and sundries
9-58 Hodono Teppō-machi, Akita
tel. +81-(0)18-853-0533
open hours 12:00-20:00
www.aufheben-store.com

いい暮らし届けたい
nices
ナイス